

金属プレス製品製造業における飛来・落下災害の死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
3	14~15	銅製部品（約縦50cm・横60cm・幅27cm、25kg位）を1m50cm位の台の上に置こうとしたところ、誤って落としてしまい右足甲を負傷した。	41	1~9
4	6~7	20kg×3枚重ねの鉄板を一度に持ち上げた時、重さに耐えられず鉄板を落としてしまい、その鉄板が右足の甲を直撃した。	32	10~29
4	14~15	工場で金型交換中、金型の下に敷くプレートをずらしていた時にバランスを崩してプレートが落下し、左足のふくらはぎに接触し、擦り傷が3本ほど入った。	48	1~9
5	14~15	工場にてベンダー作業の段取り中に、F社向け製品を下死点の設定を間違えた状態で曲げ加工を行ってしまい、下金型に過剰な圧力がかかり金型が破損して欠片が飛び散り、作業車の右胸部へぶつかった。	37	50~99
5	13~14	金型製品置場で、パレット上に保管の金型を移動する為、ハンドリフトの爪部分に金型を滑らして移動作業中、ハンドリフト側に力が加わり、金型をハンドリフト爪部分に固定する前に、リフト爪の先端にのっていた金型がバランスを崩し、支えようとして床と金型の間で手を挟んだ。	47	100~299
6	9~10	当時、当社展示場1階作業場で、鉄製品の出荷前にサンダー（ワイヤーブラシ装着）を使いサビ落としの作業をしていたところ、手元から50~60cm程の顔面に3cm程のワイヤーブラシの破片が飛んでしまい、ゴーグルをしていなかった為、左目に刺さり負傷したものである。	27	1~9
7	15~16	工場内で、クレーンにつられた金型を下ろす際、金型がクレーンのフックから外れ、足に当たり負傷した。	46	1~9

7	11~ 12	当社工場内において、鋼板1枚を移動させる際、ハッカーで両側を引っ掛け吊り上げたとき、片側が2枚引っかかっており、2枚かかっていた方のハッカーが外れてしまい、鋼材が片側だけに吊っている状態で斜めになり、横にスライドして左足を挟んでしまった。	21	100 ~ 299
7	14~ 15	事業場内にて、プレス部品の歪みを取る作業をするために、60tプレス機に金型を取り付ける際に、右手で上型を押さえ、左手でボルトを締めようとしたときに、右手が緩み上型が落下し、右手親指に上型が当たり負傷した。	45	30 ~ 49
9	9~ 10	工場内で、材料をセットする機械（コイラー）に金属加工のため、材料（重さ500kg・長さ80cm）をセットするためホイストで吊り上げてセット中に、吊り上げていたホイストのワイヤーが切れて（劣化していた）右足に落ちて右足関節部（踵）を内外果骨折した。	39	1~ 9
11	9~ 10	本社工場プレス加工作業場鋼板の折り曲げ加工後に、プレス機の上部金型に製品がくっ付いたままになってしまい製品を取り外そうとした際に、製品が上部金型から外れ落下し作業者の右手指先に当たり挟まれ負傷した。	27	100 ~ 299
11	14~ 15	当社工場内において、鉄板の段取り作業中、地面に置いてあった鉄板（400mm×300mm重さ2kg／枚）を30枚程作業台（高さ1m）の上に数枚ずつ置いていたが、板木（幅100mm）の上に置いたため、板木が小さくバランスを崩し、誤って鉄板が崩れ右足親指の付根に当たり負傷したものである。	68	1~ 9
12	11~12	工場内にて、リーチリフト（1.5t）を使いプレス機にコイル（直径1m、重さ320kg）をセットしようとしていた際、コイルの向きが逆だったため、向きを変えようとリーチリフトの爪にフックで掛けた状態のコイルを人力で動かしたところ、フックが爪から外れ、コイルが手前に転倒し、その際にコイルが右足に当たり負傷した。	54	30 ~ 49

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to：https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_09.html